

新型コロナウイルス感染症対策

Q 感染症法上、2類相当から5類に変更されたが、感染者数は4月以降8週連続で緩やかに上昇している。感染拡大が起らないよう国・県に対策を求めるべきだ。

A 10月以降の医療費の支援については、国の動向を注視していく。

東光寺駅周辺の整備を

Q 長岡駅から新潟駅まで、駅前に建物がないのは東光寺駅だけだ。夜間は防犯上危険で自動車での送迎も多い。駐車スペースの拡張など駅周辺を整備できないか。

A 現状において駐車場の拡張は考えていない。



朝夕、送迎者で混み合う東光寺駅



武石栄二議員の質問

八十里越開通への期待と取り組みについて

Q 通過点とならないための対策に足湯の設置はどうか。

A 指定管理者や地元の見解を聞いて検討したい。

Q 大谷ダム入り口の壁画の補修はどうか。

A 県に働き掛けていきたい。

Q 伝統文化である大谷地和紙は貴重な観光資源になるのではないか。

A 県の伝統工芸品に指定されたことから、活用方法を検討していきたい。

下田地域の登下校時のスクールバス運行の再度的見直しについて

Q 通学に車道を使っている箇所がある。熊出没や不審者対策等からもスクールバス運行を見直してはどうか。

A 安全に通学できる環境づくりに向け現行の運行基準を検証し、必要に応じて見直していきたい。



下田地域の少子化の現状学校や保育所の在り方について

Q 少子化の影響により小学校では複式学級も生じている。統廃合の検討等今後の在り方についての見解はどうか。

A 昨年1年間で下田地域で出生した子どもは27人。子どもたちが確かな成長を遂げていくため必要な教育環境の形成に責任を持って注力していきたい。

藤家貴之議員の質問

路線バスについて

Q 市として公共交通にどこまで影響を及ぼせるのか。

A 三条市地域公共交通協議会等を通じ意見、要望を伝えているが、運行事業者が利用料金収入や運行経費等を踏まえた経営判断で行っている。

Q ダイヤ改正で減便し利用者に影響が及んでいるが、ダイヤ設定は見直せるのか。

A 運行事業者に影響を受けている市民の声を伝えたが、現時点での増便は難しいとのこと。

水稲における農業振興について

Q 農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想を、より実効性を高める計画へ改善が必要ではないか。

A 令和6年度末をめどに見直しを進める。

Q スマート農業のモデル地区を設けてはどうか。

A 現時点では考えていない。



GPS付きトラクター



野崎久雄議員の質問

三条市における観光資源の魅力向上について

Q (仮称)三条風記念館を造り、アーカイブスの整備やワークショップを兼ね備えた情報発信拠点を造ることで、



一ノ木戸小学校創立150周年記念式典

Q 国内外に発信すべきと考えるがどうか。

A 他の類似事例の情報収集や三条風協会をはじめとする関係者と意見交換を行って調査していく。

Q 先日も三条市一ノ木戸小学校創立150周年において、記念セレモニーとして、風ばやしクラブによる勇壮なる演奏が披露された。三条風ばよしの普及と発信についてどう考えるのか。

A 三条風合戦と併せてPRすることがより効果的と考えている。三条風合戦の歴史や独自性等を発信し、三条風ばやしについてもさらなるPR方法を考える。

带状疱疹ワクチン接種費用の補助について

Q 加齢などの免疫力の低下などで痛みを伴う赤い斑点と水膨れが多数集まって、帯状に生じる带状疱疹が注目を浴びている。50歳代から発症率が高くなり、三条市では5万人以上の市民が該当する。発生を防ぐワクチン接種費用の補助についてどう考えるか。

A 三条市も多くの市民の方に満足していただける形で考えている。

酒井健議員の質問

都市計画道路新保裏館線

Q 今後の整備計画を伺う。

A 現在基礎調査を実施、重要な路線であり早期完成を目指し取り組み。

八十里越開通に向けた環境整備

Q 沿線の廃屋対策を伺う。

A 3軒把握しているが危険な状態ではない。

Q ハナミズキ街道沿線の活用について伺う。

A 必要性に応じ検討する。

Q 説明会等を開催し公共交通に関する意思決定に多くの方が参加できる機会を増やしてはどうか。

A 三条市地域公共交通協議会で検討しており、そういう機会は予定していない。

八十里越区間の開通を見越した下田地域の魅力向上について

Q いい湯らていと道の駅漢学の里しただの今後の展望や改善策について伺う。

A 両施設を総合的に捉え、施設をリニューアルしていく。

Q リニューアルをどのように進めて行く予定なのか。

A 指定管理者と関係団体等と交えて、検討体制をつくる。



いい湯らてい



「危険がない？」放置家屋

一般廃棄物処理業(収集運搬)

Q 新規許可について伺う。

A 事業系ごみが著しく増加しない限り新規許可は出さない。

学校の内科検診方法の変更

Q 苦情についての見解を伺う。

A 脱衣の検診への不安や疑問であり、丁寧に説明し無理強いはしていない。

Q 苦情と脱衣による検診拒否、今後について伺う。

A 苦情は9件、検診拒否した児童生徒は現在7人。着衣での検診と学校医のクリニックでの受診について学校に周知を依頼。今後検討が必要。